

Build-up 追加説明について

[A] 物事をそのまま述べる (平叙文)

大前提: 1つの文には、主語(S)と動詞(V)が必要である。

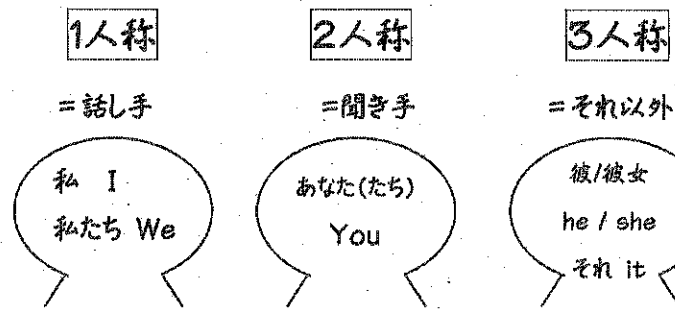
- 具体的な動作を表す語: 一般動詞 ex. run 走る speak 話す
- 補足的に用いる語: be 動詞 ex. ~です。~がある。~にいる。

※ 動詞に -(e)s をつけるのはどんな時?

→ 主語が、3人称かつ単数形であり、現在時制の文の時に動詞に -(e)s がつきます。

これらを短縮して、**3単現の -(e)s** という風呼びます。

※ 3人称って何ですか?



具体的な動作(一般動詞)がなければ、be 動詞を用いる

【覚え方】これを覚えておけば安心!!

現在形の文で、主語が

I と You と 複数形

以外の場合、動詞に -(e)s がつく。

- ex. 私はテニスをします。 I play tennis.
 彼女はテニスをします。 She plays tennis.
 彼はテニスをします。 He plays tennis.
 私のお兄ちゃんはテニスをします。 My brother plays tennis. (主語は、×私、○私のお兄ちゃん)
 私の弟たちはテニスをします。 My brothers play tennis. (主語が複数形の場合は、つかない)

否定文の作り方

- ① 文の中の動詞を探しましょう。
- ② be 動詞があった場合 → be 動詞の後ろに not を入れましょう。
 一般動詞がある場合 → 一般動詞の前に do not (主語が3単現の場合は does not) を入れる。

ex. 私は学生です。 私は学生ではありません。
 I am a student. I am not a student.
 私はテニスをします。 私はテニスをしません。
 I play tennis. I do not play tennis.

[B] 物事を尋ねる (Yes / No 疑問文・疑問詞で始まる疑問文)

疑問文の作り方

- ① 文の中の動詞を探しましょう。
- ② be 動詞があった場合 → be 動詞を主語の前に出しましょう。
 一般動詞がある場合 → do (主語が3単現の場合は does) を主語の前に出す。

ex. 彼は学生です。 彼は学生ですか?
 He is a student. Is he a student?

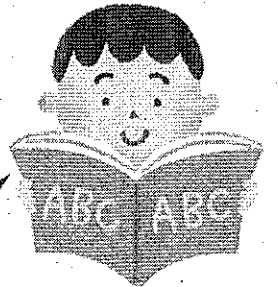
疑問詞を含む疑問文の作り方

→ 疑問文の最初に、尋ねたい疑問詞を入れる。

○ 疑問詞

だれ → who だれの → whose なに → what どれ、どちら → which
 いつ → when どこに → where なぜ → why どのように → how

- 普通の疑問文は、Yes / No で答える。
- 疑問詞を含む疑問文は具体的な答えを用いて答える。



主語が3単現の時の疑問文や否定文 → 動詞は元の形(=原形)に戻す。
 → 文の中に1度だけ3単現を示せばよい。(Does や doesn't で示す)

[C] 相手に命令する(命令文) / 強い感情を表す(感嘆文)

命令文 → 目の前の相手(= You)に用いる表現なので、主語を省略する。
 つまり、動詞の原形から文が始まる。

禁止 → 「~してはいけない」という強い意味の否定を表す。
 目の前の相手(= You)に用いる表現なので、主語を省略する。
 つまり、Don't + 動詞の原形から文が始まる。

※ be 動詞を用いるが必要な場合は、

- ・ Be ~ 「~しなさい」
 - ・ Don't be ~ 「~してはいけない」の形になる。
- Ex. ① 静かにしなさい。 ② ここで騒がしくしてはいけない。
 Be quiet. Don't be noisy here.

感嘆文について

→ 主語の強いポジティブな驚きを表す表現。

- ① 「なんて~なのだろう!」
- ② 「なんて~な...なのだろう!」

※ 何に対して、感嘆を示しているのかが大切。文の中で一番大切な部分を先頭に持つ。

[次の2つの文の違いを考えましょう。]

① この家はなんて美しいのだろう!
 「なんて」が
 「美しい=beautiful」にかかる。
 = 形
 → How を用いる。

② これはなんて美しい家なのだろう!
 「なんて」が
 「美しい家=a beautiful house」にかかる。
 = 形 + 名
 → What を用いる。

How beautiful this house is.

What a beautiful house this is.

形 S V

形 + 名 S V

Lesson 1 Do you like sports?

Practice 解答

- [1] 肯定文を作るポイント!! → ① 一般動詞を用いるか、be 動詞を用いるか。
 ② 『3単現』の -(e)s が必要かどうか。 ※ be 動詞には不要

1. She likes cats. 彼女は猫が好きだ。 / She doesn't like cats. 彼女は猫が好きでない。
2. He is a good cook. 彼は良い料理人だ。 / He isn't a good cook. 彼は良い料理人でない。
3. I went to the zoo yesterday. 私は昨日動物園へ行った。
 I didn't go to the zoo yesterday. 私は昨日動物園へ行かなかった。

【解説】

1. She は3人称の単数なので、動詞には -(e)s がつく。また、否定文や疑問文の場合は、動詞は原形に戻る。
2. be 動詞は主語に合わせて変化する。また、be 動詞を用いる否定文は、be 動詞の後ろに not を入れる。
3. yesterday は過去を表す単語なので、動詞 go を過去形の went にする。
 また、過去形の場合、do は過去形の did になるため、否定文は didn't を使い、「行く」は原形の go を用いる。

- [2] 下線部を問う疑問文作成のポイント!! → ① 下線部が何を表すかを確認する。
 ② それを問うのに最適の疑問詞を選ぶ。→ 文頭に置く。
 ③ 残っている部分を疑問文の語順にして、疑問詞の直後につける。

1. Where do they live? 彼らはどこに住んでいますか。
2. When did his brother come back? 彼の兄(弟)はいつ帰ってきますか。
3. What did Fred buy yesterday? フレッドは昨日何を買いましたか。
4. ① Whose dog is this? / ② Whose is this dog? これはだれの犬ですか。(①、②とも正解とする)

【解説】

1. in New York 「ニューヨークで」は 場所 を表すため、Where を疑問詞に用いる。
 残った部分は、動詞 live があるので、Do を用いて疑問文の語順を作成する。
2. at noon 「正午に」は とき を表すため、when を疑問詞に用いる。
 残った部分は、動詞 came が過去形なので、Did を用いて疑問文の語順を作成する。その際に、came は come にする。
3. a new magazine 「新しい雑誌」は もの を表すため、what を疑問詞に用いる。
 残った部分は、動詞 bought が過去形なので、Did を用いて疑問文の語順を作成する。その際に、bought は buy にする。
4. Ben's ~ 「ベンのも」は ものの所有者 を表すため、whose を疑問詞に用いる。
 ※この時、①言葉のまとまりを考え、聞きたいこと = 「誰の犬か」をひとまとまりにして、先頭にもってくる。
 残った部分は、be 動詞を用いているので、be 動詞を前に出して、疑問文の語順を作成する。
 ②疑問詞 whose のみを先頭にもってくる。
 残った部分は、be 動詞を用いているので、be 動詞を前に出して、疑問文の語順を作成する。
 ①と②はどちらも解答として正解となる。

Lesson 1 Do you like sports?

[3] 命令文や感嘆文を用いて文を完成させよう!! → 教科書 P.10「C」やこのプリントの追加説明を読んでみよう。

1. (Don't) eat here. ここでは食べてはいけません。
2. (Finish) your homework quickly. 早く宿題を終えなさい。
3. (How) lovely this flower is! この花はなんてかわいらしいのだろう。

【解説】

1. 「～してはいけない」は禁止を表すので、Don't ~ の形にする。
2. 「～しなさい」は命令を表すので、動詞の原形から文を始める。具体的な動作は「終わる」なので、Finish を用いる。
3. 何に対して感嘆しているのかというと、この花が「なんてかわいらしい」のかということに感嘆している。
 「なんて」が「かわいらしい = lovely 形」にかかっているため、How を用いる。

- [4] 並べ替えて文を作る問題のポイント!! → ① まずは、問題文を分節に区切ってみましょう。
 ② 次に、文の主語と動詞になる部分を見つけましょう。
 ③ 残った部分を並べてみましょう。
 ※とにかく、言葉のまとまりを崩さないことを意識してみましょう。

1. (Is she in the kitchen) now? 彼女は今キッチンにいますか。
2. (How did you come here)? あなたはどのようにしてここへ来たのですか。
3. (What a large house this is)! これはなんて大きな家だろう。

【解説】

1. 彼女は今/キッチンにいますか。(疑問文)
 存在を示す「いる」や「ある」は be 動詞を用いる。
 → 彼女は今/キッチンに/今/ She / is / in the kitchen / now. を疑問文の語順に直せばよい。
2. 「どのようにして」が聞きたいこと。方法を尋ねるには How を疑問詞に用いる。
 「ここへ来ましたか」は過去形の疑問文であることを考えると…
 → どのようにして/あなたは/来ましたか/ここへ How / did you come / here ?
3. 何に対して感嘆しているのかというと、これが「なんて大きな家」なのかということに感嘆している。
 「なんて」が「大きな家 = a large house 形+名」にかかっているため、What を用いる。
 なんて大きな家なのだろう/これは What a large house / this / is !
 ※感嘆「なんて～なのだろう」を文頭に持ってくるのがポイント。

英語はく重要な情報ほど前に持ってくるのが基本。であるため、【誰が=主語】【何をした=動詞】が文頭に並ぶ。同様に考えていくと、疑問詞や感嘆を示す部分はそれだけ、文の中において重要な情報であるということ。ちなみに、日本語は【誰が=主語】と【何をした=動詞】で、その他の情報をはさみこむ形をとる。

日本語と英語の『言語としての感覚・とらえ方』は違うということを頭に入れておこう。

Build-up 1 追加説明について

[A] 文の成り立ち

1つの文は、まとまりに区切って考えていくとよい。そして、そのまとまりは1つ1つ役割を持つ。

- S [主語] → 「～は」や「～が」。動作の主体を表す。
- V [動作] → 「～する」、「～である」。文の中の動作を表す。
- O [目的語] → 「～を」、「～に」。動作の対象を表す。
- C [補語] → 主語や目的語を説明する。
- M [修飾語] → S, V, O, C 以外の語句。動詞を修飾する語。

【OとCってどう見分ければいいの?】

→ 目的語Oと、補語Cは見分けがつきにくい...

Sとbe動詞でつながられる場合は、補語Cになり、
つなげられない場合は、目的語Oとなる。

ex. She became a doctor. 彼女は医者になった。

C ← この場合、O She is a doctor. 彼女 = 医者

She doesn't like the doctor. 彼女はその医者が好きではない。

O ← この場合、X She is the doctor. 彼女 ≠ その医者

※ 同じ単語でも、状況と使われ方で役割は変わります。

[B] SV < 第1文型 >

第1文型の作り方

- ① 誰が(S), 何を(V)の順にまとまりを作る。
- ② 必要に応じて修飾語(M)を付け加える。

→ ex. 「とき」や「場所」を表す言葉のまとまり。

※ 1文型に該当する特殊な文型について

There is ~ / There are ~ ~がある。 / ~にいる。

ex. There is a tree in the yard. 庭に1本の木がある。

V S M [SとVが入れ替わっている(倒置している)特殊な文型]

[さらなるレベルアップを目指す人へ!!]

Q. なぜこんな複雑な文にしなくてはならないの?? A tree is in the yard ではないの??

A. 文法的には正解ですが、コミュニケーションを取る際には、やや違和感が残ります。

→ 英語の語順は、よく知ったものやなじみの深いもの、重要なものから前に置かれる傾向があります。

a tree 「とある木」という初めて登場する、よく知らない情報が文頭に来ることに違和感があるわけです。

なので、倒置することにより、初出の情報が先頭に来ることを避けるというところに狙いがあります。

つまり...

O There is a cat on the desk. 机の上に猫がいます。 ← いきなり新しい

X There is my cat on the desk. 机の上に私の猫がいます。 ← theや所有者の分かるものは使う必要なし。

→ この場合は、My cat is on the desk. でよい。

前 + 名 のまとまりになることが多い。

ex. in my school 学校で

with my friends 友達と

[C] SVC < 第2文型 >

第2文型の作り方

- ① 誰が(S), 何を(V)の順にまとまりを作る。
- ② 補語(C)を付け加える。
- ③ 必要に応じて修飾語(M)を付け加える。

ex. He is famous. 彼は有名である

S V C

※ V(動詞)が具体的な動詞になる場合もある。

ex. She looks busy now. 彼女は今忙しそうに見える。

S V C M She is busy と言っているので、S=Cが成り立つ。

【復習】

C(補語)とは何だったろう??

→ 主語とbe動詞でつなげるもの。

S=Cの関係が成り立つ。

2文型を作る一般動詞とその意味

become (~になる) keep (ずっと~である) look (~に見える)

smell (~においがする) sound (~のように聞こえる) など

※ 大事なことは、文が何文型であるということではありません。

この、1文型や2文型という名前はあくまで飾りです。

文を言葉のまとまりで見られるということ、そのまとまりがどのような働きをしているかということのほうがはるかに重要です。

文型を覚えることにいっぱいにならないようにしましょう。

Practice 解答

[1] 品詞を判断するポイント!! → ① 文の先頭は S(主語)、そして次に V(動詞) が来る。

② その次に来る語については、判断が必用!!

→ ・ S≠O(目的語)、S=C(補語) の関係になるということを覚えておく。

・ 「とき」や「場所」を表す語、前 + 名 のパターンは M になる。

1. We play badminton during lunch break. 私たちは昼休みにバドミントンします。

S V O

2. The baby slept all afternoon. その赤ん坊は午後の間ずっと眠っていた。

S V

3. The flower over there are beautiful. あそこの花は美しい。

S V C

【 解説 】

1. 先頭の We は 主語(S) となり、その次の play は 動詞(V) である。ここまでは基本。

続く badminton は、修飾語にも該当せず、We ≠ badminton なので、目的語(O) であるといえる。

2. 先頭の The baby は 主語(S) となり、その次の slept は 動詞(V) である。

3. 先頭の The flower は 主語(S) となり、the flower over there までが 主語の働きをする主部(複数の語のまとまり)。

その次の play は 動詞(V) となる。ここまでは基本。

続く beautiful は、修飾語にも該当せず、We = beautiful が成り立つので、補語(C) であるといえる。

[2] この設問を解答するポイント!! → ① 絵をよく見て、「何」が「いくつ」あるのかを確認する。

② There is + 単数名 / There are + 複数名

→ be 動詞の後ろの名の単複によって、be 動詞の形が変わる。

1. There is a TV near the window. 窓の近くにテレビがあります。

2. There are three cups on the table. テーブルの上にカップが3つあります。

3. There is a bookstore next to the station. 駅の横に本屋があります。

【 解説 】

1. 絵の中には、テレビが1台あるため、a TV を用いて書けばよい。また、単数形なので、be 動詞は is となる。

2. 絵の中には、カップが3つあるため、three cups を用いて書けばよい。また、複数形なので、be 動詞は are となる。

3. 絵の中には、本屋が1軒あるため、a bookstore を用いて書けばよい。また、単数形なので、be 動詞は is となる。

※ 場所を表す表現について

→ 前 + 名 の組み合わせで書き表すことができる。

- ・ on ~ (~の上に)
- ・ under ~ (~の下に)
- ・ next to ~ (~の横に)
- ・ near ~ (~の近くに)
- ・ at ~ (~に)
- ・ in ~ (~の中に)
- ・ ... などがある。

[3] 適切な動詞を入れよう!! → 教科書 P.14 「C」 や このプリントの追加説明を読んでみよう。
また、3 単現や過去形が必要かどうかをしっかりと判断しよう。

1. He (became) a pilot. 彼はパイロットになった。
2. This soup (smells) good. このスープはいいにおいがする。
3. My aunt (is) a journalist. 私のおばはジャーナリストだ。
4. He (looks) angry. 彼は怒っているように見える。

【 解説 】

1. 「~になる」は become を用いる。本問は、「~になった」とあるので、過去形の became を入れる。

2. 「~においがする」は smell を用いる。本問は、主語が「このスープ」なので、3 単現の smells となる。

3. 具体的な動作が文中にないため、be 動詞 を用いて補う。主語に合う be 動詞は is である。

4. 「~に見える」は look を用いる。本問は、主語が「彼」なので、3 単現の looks となる。

[4] 並べ替えて文を作る問題のポイント!! → ① まずは、問題文を分節に区切ってみよう。

② 次に、文の主語と動詞になる部分を見つけよう。

③ 残った部分を並べてみよう。

※とにかく、言葉のまとまりを崩さないことを意識してしましよう。

1. (Were there many people at the party)? パーティにはたくさん人がいましたか。

2. (The bell rings at seven every) morning. その鐘は毎朝7時に鳴る。

3. (The children kept quiet during) the concert. 子どもたちはそのコンサートの間、ずっと静かだった。

【 解説 】

1. パーティには / たくさんの人が / いましたか。(疑問文)

※「~は」がパーティにもついているが、「いますか」につながるのは、「たくさんの人が」なので、こちらが主語になる。

「~がいる」、「~がある」は there is ~ の構文を用いられよい。過去形であることと疑問文であることに注意する。

2. その鐘は / 毎朝 / 7時に / 鳴る。

① ←————— ③ ②

「その鐘」が 主語(S) であり、「鳴る」が 動詞(V) である。その後に、「7時」と「毎朝」の 修飾語(M) がつく。

3. その子どもたちは / そのコンサートの間 / 静かな状態を / 保っていた。

① ←————— ③ ②

「その子どもたち」が 主語(S) であり、「保っていた」が 動詞(V) である。その後に、「7時」と「毎朝」の 修飾語(M) がつく。

その後に、「静かな」という 補語(C) がつき、最後に「コンサートの間」の 修飾語(M) がつく。

Build-up 2 追加説明について

[A] SVO / SVOO < 第3文型 / 第4文型 >

第3文型の作り方

- ① 誰が(S),何をする(V)の順にまとまりを作る。
- ② 動詞(V)の後に、「何に」や「何を」を表す目的語(O)を付け加える。
- ③ 必要に応じて修飾語(M)を付け加える。

第4文型の作り方 → 「~に」「~を」を表す目的語を2つもつ文型

- ① 誰が(S),何をする(V)の順にまとまりを作る。
- ② 動詞(V)の後に、「何に」、「何を」の順に目的語(O)を付け加える。
- ③ 必要に応じて修飾語(M)を付け加える。

【4文型を作る動詞】

- give型
give (与える) show (見せる) tell (教える) teach (教える) lend (貸す) send (送る)
- buy型
buy (買う) find (見つける) make (作る)

※ タイプAとタイプBの動詞の違いについて

→ 第4文型の文は、第3文型の文に書き換えることができる。

中学校でこんな言い方を勉強しませんでしたか?

give (人) (物) (人)に(物)を与える。

ex. 彼は/サリーに/指輪を/あげた。

(人) (物)

He gave Sally a ring.

S V O₁ O₂

give (物)to(人) (人)に(物)を与える。

ex. 彼は/サリーに/指輪を/あげた。

(人) (物)

He gave a ring to Sally.

S V O 前 + 名 = M

※ 4文型から3文型に書き換えるときに、toを用いるのが give型の動詞、forを用いるのが buy型の動詞。

(~へ)

(~のために)

ex. 彼は/サリーに/指輪を/買った。

He bought Sally a ring.

S V O₁ O₂

← He bought a ring for Sally.

S V O 前 + 名 = M



理論的に覚えていくよりも、
何回も口ずさんで覚えていくほうが簡単かも!?
Buy型の動詞の方が、数が少ないので、
そちらだけ覚えてしまうのも1つだね。

[B] SVOOC < 第5文型 >

この時 O=C の関係が成り立つ。
つまり、O is C と言える。

第5文型の作り方

- ① 誰が(S),何をする(V)の順にまとまりを作る。
- ② 動詞(V)の後に、「何に」や「何を」を表す目的語(O)を付け加える。
- ③ 目的語(O)の状態を説明する補語(C)を付け加える。
- ④ 必要に応じて修飾語(M)を付け加える。

ex. We call our dog Elmo. 私たちは/我が家の犬を/エルモと呼ぶ。

S V O C (O=C, Our dog is Elmo. の文が成り立っている)

【第5文型を作る動詞】

- keep OC (OをCにしておく) paint OC (OをCの色に塗る)
- find OC (OがCだとわかる) make OC (OをCにする)

[C] 自動詞と他動詞

自動詞とは?

→ それだけで意味が成り立つ動詞のこと。

※ 第1文型や第2文型を作る。

ex. She swims in the pool every day. 彼女は毎日、プールで泳ぐ

S V 前 + 名 = M M

他動詞とは?

→ 後ろに目的語を伴うことによっていいが成り立つ動詞のこと。

※ 第3~5文型を作る。

ex. She often buys her clothes at that store. 彼女はよくあの店で服を買う

S V O 前 + 名 = M

「何を?」と気になるため、
後ろにそれが必要になる。

[さらなるレベルアップを目指す人へ!!]

→ 似たような意味を持つ自動詞と他動詞を紹介します。問題を解くには使わないため、あくまで+αです。

① 自 あがる、のぼる → rise (rise - rose - risen)

他 ~をあげる → raise (raise - raised - raised)

ex. The sun rises in the east. 太陽は東からのぼります

自 前 + 名 = M

Please raise your hand. 手を挙げてください

他 O

② 自 ~に横たわる → lie (lie - lay - lain)

他 ~を横たえる → lay (lay - laid - laid)

ex. He lies on the sofa. 彼はソファに横になっている

自 前 + 名 = M

He lay his bag on the sofa. 彼はカバンをソファに置きます

他 O 前 + 名 = M

Lesson 2 I study Japanese though Anime.

Practice 解答

[1] この設問を解くポイント!! → ① ()にどの語が入るのかを考えよう。

- ② 動か名なのか。もしくは、文型の一部なのか。日本語訳や左のページを見て考えよう。
- ③ 動ならば、3単現や過去形かどうかを確認する。
- 名ならば、複数形なのか、単数形なのかを確認する。

1. He (showed) Kate some pictures. 彼はケイトに写真を何枚か見せた。
S V O₁ O₂
2. The girl (gave) a birthday present (to) her mother. 少女は母親に誕生日プレゼントをあげた。
S V O 前 + 名 = M
3. Lisa (made) a fruit cake (for) her sister. リサは姉にフルーツケーキを作った。
S V O 前 + 名 = M

【解説】

1. 足りない部分は「見せた」の部分。過去形にしなければならないので、過去形の showed を入れる。
2. 足りない部分は「あげた」の部分。過去形にしなければならないので、過去形の gave を入れる。
gave の後ろが「誕生日プレゼント」で(物)がきているので、give (物) to (人) の形をあてはめる。
3. 足りない部分は「作ってあげた」の部分。過去形にしなければならないので、過去形の made を入れる。
made の後ろが「フルーツケーキ」で(物)がきているので、make (物) for (人) の形をあてはめる。

[2] 適切な動詞を入れよう!! → 教科書 P.14「C」やこのプリントの追加説明を読んでみよう。

また、3単現や過去形が必要かどうかをしっかりと判断しよう。

1. I (paint) the kitchen wall white. 私はキッチンの壁を白く塗った。
S V O C → (O=C, the kitchen wall is white. の文が成り立っている)
2. Please (keep) the door open. ドアを開けたままにしてください。
V O C → (O=C, the door is open. の文が成り立っている)
3. I (find) this question difficult. この問題は難しいと分かった。
S V O C → (O=C, this question is difficult. の文が成り立っている)
4. The news (make) him angry. その知らせは彼を怒らせた。
S V O C → (O=C, he is angry. の文が成り立っている)

【解説】

1. 「OをCに塗る」を満たす動詞は、paint である。過去形なので、paint を用いる。
2. 「OをCのままにする」を満たす動詞は、keep である。命令文なので、動の原形 keep を用いる。
3. 「OがCとわかる」を満たす動詞は、find である。過去形なので、found を用いる。
4. 「OをCにする」を満たす動詞は、make である。過去形なので、made を用いる。

Lesson 2 I study Japanese though Anime.

[3] 適切なほうを選びなさい!! → どの動詞が自動詞で、どの動詞が他動詞かを見極めましょう。

また、自動詞の場合、直後に来る前は何かということもセットで覚えよう。

1. The train (arrived at) the station on time. 電車は定刻どおりに駅に着いた。
2. The store (sells) toys and games. そのお店はおもちゃやゲームを売っている。
3. I (went to) bed early last night. 昨夜、私は早く寝た。

【解説】

1. 「つく」arrive は自動詞である。また、arrive とセットになる前は at や in なので、arrive at ~ 「~につく」で覚える。
2. 「~を売る」sell は他動詞である。よって、直後に目的語(O)をとる。
3. 「行く」go は自動詞である。また、go とセットになる前は to になるので、go to ~ 「~へ行く」で覚える。

[4] 並べ替えて文を作る問題のポイント!! → ① まずは、問題文を分節に区切ってみましょう。

② 次に、文の主語と動詞になる部分を見つけましょう。

③ 残った部分を並べてみましょう。

※とにかく、言葉のまとまりを崩さないことを意識してみましょう。

1. (Her parents bought a dress) for her. 彼女の両親は彼女にドレスを買ってあげました。
2. (John lent me a pencil). ジョンは私に鉛筆を貸してくれた。
3. (She keeps her room clean). 彼女は自分の部屋をきれいにしている。

【解説】

1. 彼女の両親は / 彼女に / ドレスを / 買ってあげた。
buy (人)(物) か buy (物)for(人) を用いて、「(人)に(物)を買ってあげる」の形を作る。
今回は、すでに文末に for her があるので、buy (物)for(人) の形にあてはめていくとよい。
※bought は buy の過去形
2. ジョンは / 私に / 鉛筆を / 貸してくれた。
lend (人)(物) か lend (物)to(人) を用いて、「(人)に(物)を貸す」の形を作る。
今回は、to がないので、lend (人)(物) の形にあてはめるとよい。 ※lend は lent の過去形
3. 彼女は / 自分の部屋を / きれいに / している (= 保っている)。
「OをCに保つ」keep O C の形にあてはめていく。
※主語が she なので3単現となる。keep → keeps となっている。

Get Ready 1 名詞・冠詞・代名詞

ワークブック本体 pp.4~5

Drill

1

1. He has a brother and two sisters.
2. I have bread and butter.
3. She visited many countries.
4. How many classes do you have today?
5. He bought some potatoes for dinner.
6. The children went camping for three days.
7. Those women are teachers at my school.

解説 人や物の名前を表す名詞には、数えられる名詞と数えられない名詞がある。「数えられる」とは「1, 2, 3…」と数えることができる場合を指し、数えるのに形状・容器・単位が必要な場合は「数えられない」と考える。(例) a piece of paper 「1枚の紙」, a glass of water 「1杯の水」, a liter of milk 「1リットルの牛乳」。

1. brother 「兄[弟]」, sister 「姉[妹]」は数えられる名詞。単数(1人)の場合、名詞の前にaを付ける。複数(2人以上)の場合、名詞の語尾に-sを付けて複数形にする。
2. bread 「パン」, butter 「バター」はどちらも数えられない名詞。名詞の前にaは付かず、名詞の語尾に-sは付かない。
3. country 「国」は数えられる名詞なので、複数形にする。語尾が<子音字+y>の語はyをiに変えて-esを付ける。
4. class 「授業」は数えられる名詞なので、複数形にする。語尾がsで終わる語には-esを付ける。
5. potato 「ジャガイモ」は数えられる名詞なので、複数形にする。語尾が<子音字+o>の語には-esを付ける。
6. child 「子ども」, day 「日」は数えられる名詞。childは不規則変化をする名詞で、複数形はchildren。dayのように、語尾が<母音字+y>の語はそのまま-sを付ける。
7. woman 「女の人」, teacher 「先生」はどちらも数えられる名詞。womanは不規則変化をする名詞で、複数形はwomen/wimn/。

2

1. Take an umbrella.
2. I have a dog and a cat. The dog sleeps under my bed.
3. He has x useful information.
4. I don't have x homework today.
5. The moon is smaller than the earth.

解説 冠詞は名詞の前に付き、話し手や聞き手の理解の状況(特定されたものか特定されていないものか)を表す。

1. 「傘を持って行きなさい。」 umbrella 「傘」は数えられる名詞で単数形なのでanを付ける。a/anは「不特定のもの」が1つあることを表す。つまり、その会話で初めて出てくる語

で、聞き手は何を指しているのか特定できていないことを示す。発音が子音で始まる語の前にはaを、発音が母音で始まる語の前にはanを付ける。a dog /dɔː(ː)g/, an apple /æpl/. どの傘を持って行くかあらかじめ決まっている場合は、Take the umbrella. や Take your umbrella. でもよい。

2. 「私は犬と猫を飼っている。犬は私のベッドの下で寝る。」 dog 「犬」は数えられる名詞で単数形なのでaを付ける。1文目ではaが付いて不特定のものであることを示しているが、2文目ではtheを付けて特定のものであることを示す。theは聞き手がどれを指しているのか特定できる場合に、名詞の前に置く。
3. 「彼は役に立つ情報を持っている。」 information 「情報」は数えられない名詞で、特定できない場合は冠詞を付けない。特定できる場合はthe information 「その情報」となる。
4. 「今日は宿題がない。」 homework 「宿題」は数えられない名詞で、特定できない場合は冠詞を付けない。特定できる場合はthe homework 「その宿題」となる。
5. 「月は地球よりも小さい。」1つしか存在しないものにはtheを付ける。その会話で初めて出てきても、聞き手が何を指しているか特定できるからである。theの発音は、後ろの語の発音が子音で始まるときは/ðə/, 母音で始まるときは/ði/と発音する。the moon /ðə muːn/, the earth /ði ɜːrθ/。

3

1. I visited my grandmother yesterday.
2. I saw him at the party.
3. Tom showed us the picture.
4. We went to watch their soccer game.
5. "Is this yours?" "No, it's hers."

解説 人称代名詞は人を表す名詞の代わりにする語で、格変化をする。

1. 1人称単数の主格はI「私は」で、所有格はmy「私の」で表す。なお、目的格はme「私を」で表す。
2. 男性3人称単数の目的格はhim「彼を」で表す。なお、主格はhe「彼は」、所有格はhis「彼の」で表す。
3. 1人称複数の目的格はus「私たちに[を]」で表す。なお、主格はwe「私たちは」、所有格はour「私たちの」で表す。
4. 3人称複数の所有格はtheir「彼らの」で表す。なお、主格はthey「彼らは」、目的格はthem「彼らを」で表す。
5. 2人称単数の所有代名詞はyours「あなたのもの」で、女性3人称単数の所有代名詞はhers「彼女のもの」で表す。ほかの所有代名詞はmine「私のもの」、his「彼のもの」、ours「私たちのもの」、yours「あなたの方のもの」、theirs「彼らのもの」となる。所有代名詞「~のもの」は、<所有格+名詞>の代わりとして使う。(例) "Is this your bag?" "Yes, it's mine." 「これはあなたのかばんですか。」「はい。私のかばんです。」

Get Ready 2 be動詞・一般動詞

ワークブック本体 pp.6~7

Drill

1

1. I am good at tennis.
2. You are kind to children.
3. He is from Okinawa.
4. It is a popular doll.
5. The bus is often late.
6. They are tourists from China.

解説 be動詞は「~である」「(~)にいる、ある」を表す。主語の人称や時制によって形が変わる。

1. 「私はテニスが得意だ。」主語が1人称単数Iなので、amを選ぶ。
2. 「あなた[方]は子どもたちに親切だ。」主語が2人称単数[複数]Youなので、areを選ぶ。
3. 「彼は沖縄出身だ。」主語が3人称単数Heなので、isを選ぶ。
4. 「それは人気のある人形だ。」主語が3人称単数Itなので、isを選ぶ。
5. 「そのバスはしばしば遅れる。」主語のbusは3人称単数なので、isを選ぶ。
6. 「彼らは中国から来た観光客だ。」主語が3人称複数Theyなのでareを選ぶ。

2

1. I was at home at that time.
2. People were surprised at the news.
3. It was an exciting game.
4. The mountains were beautiful.
5. Emily was an exchange student from Canada.
6. We were happy to see you.

解説 be動詞の過去形「~だった」「(~)にいた、あった」はwasとwere。

1. 「私はその時、家にいた。」主語がIなのでwasを選ぶ。
2. 「人々はその知らせに驚いた。」主語の複数名詞Peopleは3人称複数として扱うので、wereを選ぶ。
3. 「それはわくわくする試合だった。」主語がItなのでwas。
4. 「その山々は美しかった。」主語は複数名詞なのでwere。
5. 「エミリーはカナダからの交換留学生だ。」主語Emilyのような人名は固有名詞と呼び、3人称単数として扱うので、wasを選ぶ。
6. 「私たちはあなたに会えてうれしかった。」主語が1人称複数Weなので、wereを選ぶ。

3

1. I live in Tokyo.

2. We have [eat] lunch together.
3. They look [seem] happy.
4. She loves ice cream.
5. Tom goes to school every day.
6. Emily studied hard yesterday.

解説 be動詞以外の動詞を一般動詞と呼ぶ。「~する」を表し、主語の人称や時制によって形が変わる。

1. live 「住む」の現在形はliveである。
2. have/eat 「~を食べる」の現在形はhave/eatである。
3. look 「~に見える」の現在形はlookである。seemも可。
- love 「~が大好きだ」を使う。主語が3人称単数で、現在形の場合は一般動詞の語尾に-sか-esを付ける。
5. go 「行く」の3人称単数現在(3単現)の形はgoes。
6. study 「勉強する」の過去形はstudiedである。動詞の活用には規則変化と不規則変化があり、規則変化をするものは語尾に-edを付けて過去形にする(→ワークブック本体p.8 Get Ready③参照)。

4

1. (Do) you drink coffee?
2. (Does) the store open at ten?
3. (Do) they always come to the meeting?
4. (Did) you enjoy ice skating yesterday?
5. Does Mike (walk) to school?
6. I (don't) cook very often.
7. My brother (doesn't) read newspapers.
8. She (didn't) wait for him last Sunday.
9. The engine doesn't (start) quickly.
10. She didn't (know) his name then.

解説 一般動詞の疑問文は<Do [Does, Did]+主語+動詞の原形...?>「~します[しました]か。」、否定文は<主語+don't [doesn't, didn't]+動詞の原形>「~しません[しませんでした]」である。

1. 「コーヒーを飲みますか。」主語に合わせてDoを選ぶ。
2. 「その店は10時に開店しますか。」主語が3人称単数なのでDoesを選ぶ。open「開く、開店する」。
3. 「彼らはいつも会議に来ますか。」主語に合わせてDoを選ぶ。
4. 「あなたは昨日、アイススケートを楽しみましたか。」yesterday「昨日」がある過去形の文なので、Didを選ぶ。
5. 「マイクは学校に歩いてきますか。」疑問文では動詞は原形。
6. 「私はあまり料理をしない。」主語に合わせてdon'tを選ぶ。
7. 「私の兄[弟]は新聞を読まない。」主語が3人称単数なのでdoesn'tを選ぶ。
8. 「彼女は先週日曜日、彼を待たなかった。」last Sunday「先週日曜日」と過去形の文なので、didn'tを選ぶ。
9. 「そのエンジンはすぐにはかからない。」否定文では動詞は原形にする。
10. 「彼女はその時、彼の名前を知らなかった。」否定文では動詞は原形にする。

Get Ready 3 動詞の活用

ワークブック本体 pp.8~9

Drill

1

1. I cooked [made] dinner yesterday.
2. I have just finished my work.
3. This picture was taken by my brother.
4. He was reading a book then.

解説 動詞を活用させることで、時制や態を表す。動詞によって規則活用するものと不規則活用するものがある。

1. yesterday 「昨日」と過去のことを表すので、動詞を過去形にする。cook 「～を料理する」は規則動詞なので、-ed を付けてcookedにする。make 「～を作る」は不規則動詞で、過去形はmade。
2. just 「ちょうど」を伴った動作の完了を表す現在完了形の文なので、動詞を(have+過去分詞)にする。finish 「～を終える」は規則動詞なので、finishedにする。
3. (by+動作主)から、受動態(be動詞+過去分詞)「～された」の文を作るとわかる。take 「～をとる」は不規則動詞で、過去分詞形はtaken。
4. then 「そのとき」とbe動詞のwasから、過去の時点で進行中の動作を表す過去進行形とわかる。動詞を(was+ing形)にする。

2

1. call - called - called - calling
2. arrive - arrived - arrived - arriving
3. carry - carried - carried - carrying
4. stay - stayed - stayed - staying
5. drop - dropped - dropped - dropping
6. happen - happened - happened - happening

解説 規則動詞の活用は、語尾に-(e)dを付けて過去形・過去分詞形に、-ingを付けて-ing形(現在分詞形・動名詞)にする。

1. callは-edや-ingをそのまま付ける。規則動詞の基本の活用をする。
2. arriveは語尾が-eで終わるため、過去形・過去分詞形は-dだけを付ける。-ing形は-eをとって-ingを付ける。
3. carryは語尾が<子音字+y>で終わるため、過去形・過去分詞形はyをiに変えて-edを付ける。-ing形はそのまま-ingを付ける。
4. stayは語尾が<母音字+y>で終わるため、過去形・過去分詞形はそのまま-edを、-ing形もそのまま-ingを付ける。
5. dropは語尾が<アクセントがある短母音+1子音字>で終わるため、最後の子音字を重ねて-edや-ingを付ける。
6. happenは語尾が<アクセントがない短母音+1子音字>で終わるため、そのまま-edや-ingを付ける。

3

1. put - put - put - putting
2. bring - brought - brought - bringing
3. find - found - found - finding
4. have - had - had - having
5. hear - heard - heard - hearing
6. leave - left - left - leaving
7. meet - met - met - meeting
8. say - said - said - saying
9. send - sent - sent - sending
10. sleep - slept - slept - sleeping
11. tell - told - told - telling
12. eat - ate - aten - eating
13. fall - fell - fallen - falling
14. give - gave - given - giving
15. show - showed - shown - showing
16. speak - spoke - spoken - speaking
17. write - wrote - written - writing

解説 不規則動詞の活用には、原形・過去形・過去分詞形が同じA-A-A型、原形と過去分詞形が同じA-B-A型、過去形と過去分詞形が同じA-B-B型、すべて違うA-B-C型がある。

1. putの活用はA-A-A型。-ing形は<アクセントがある短母音+1子音字>なので、子音字を重ねて-ingを付ける。
2. bringの過去形・過去分詞形はbrought/brɔ:t/. 2~11までの動詞の活用はすべてA-B-B型。
3. findの過去形・過去分詞形はfound/faʊnd/.
4. haveの過去形・過去分詞形はhad。-ing形は-eをとって-ingを付ける。
5. hearの過去形・過去分詞形はheard/hɜ:rd/.
6. leaveの過去形・過去分詞形はleft。-ing形は-eをとって-ingを付ける。
7. meetの過去形・過去分詞形はmet/mét/.
8. sayの過去形・過去分詞形はsaid/séd/.
9. sendの過去形・過去分詞形はsent.
10. sleepの過去形・過去分詞形はslept.
11. tellの過去形・過去分詞形はtold/tóuld/.
12. eatの過去形はate/éit/, 過去分詞形はeaten/í:tən/。-ing形はそのまま-ingを付ける。12~17までの動詞の活用はすべてA-B-C型。
13. fallの過去形はfell/fél/, 過去分詞形はfallen/fá:lən/.
14. giveの過去形はgave/géiv/, 過去分詞形はgiven/gívən/。-ing形は-eをとって-ingを付ける。
15. showの過去形はshowed, 過去分詞形はshown/ʃóun/.
16. speakの過去形はspoke/spóuk/, 過去分詞形はspoken/spókən/.
17. writeの過去形はwrote/róut/, 過去分詞形はwritten/rítən/。-ing形は-eをとって-ingを付ける。

Get Ready 4 形容詞・副詞

ワークブック本体 pp.10~11

Drill

1

1. I bought her new album.
2. It is a dangerous place.
3. He is busy now.
4. He became rich.
5. His advice was very useful.
6. Emily went shopping yesterday.
7. Please come here.
8. She ate lunch quickly.

解説 1. 名詞albumの状態を表す形容詞newを入れる。形容詞が名詞を修飾するのが限定用法。

2. 名詞placeを修飾する形容詞dangerousを入れる。
3. 代名詞Heの状態を表す形容詞busyを入れる。<主語+動詞+形容詞>の語順で、形容詞が主語の性質・状態を表すのが叙述用法。叙述用法にはもう1つ<主語+動詞+名詞+形容詞>の語順で、形容詞が目的語(名詞)の性質・状態を表す用法もある。(例) She painted the wall brown. 「彼女は壁を茶色に塗った。」
4. 主語Heの状態を表す形容詞richを入れる。
5. 主語His adviceの性質を表す形容詞usefulを入れる。
6. 動詞wentを修飾する副詞yesterdayを入れる。副詞は「いつ」「どこで」「どのように」などを表し、動詞・形容詞・副詞などを修飾する。文の主要素ではなく、副詞がなくてもその文は成り立つ。
7. 動詞comeを修飾する副詞hereを入れる。
8. 動詞ateを修飾する副詞quicklyを入れる。

2

1. small - smaller - smallest
2. tall - taller - tallest
3. high - higher - highest
4. young - younger - youngest
5. old - older - oldest
6. hot - hotter - hottest
7. cold - colder - coldest
8. long - longer - longest
9. short - shorter - shortest
10. heavy - heavier - heaviest
11. easy - easier - easiest
12. difficult - more difficult - most difficult
13. hard - harder - hardest
14. good - better - best
15. strong - stronger - strongest
16. popular - more popular - most popular

17. famous - more famous - most famous
18. important - more important - most important
19. well - better - best
20. carefully - more carefully - most carefully

解説 形容詞や副詞には、2つのものや2人を比べて「より～、もっと～」を表す比較級や、「いちばん～、最も～」を表す最上級に変化する用法がある。変化の形には、-er, -estを付ける規則変化、more, mostを付ける規則変化、形をまったく変える不規則変化がある。

1. smallのように1音節の語の規則変化は、-erを付けて比較級に、-estを付けて最上級にする。
2. tallは1音節の語で、-er, -est型の規則変化をする。
3. highは1音節の語で、-er, -est型の規則変化をする。highは山・壁など、頂点の位置が「高い」ものに、tallは人や植物など、細長く伸びていて、下から上までの高さがわかる「高い」ものに使うことが多い。
4. youngは1音節の語で、-er, -est型の規則変化をする。
5. oldは1音節の語で-er, -est型の規則変化をする。「(兄弟・姉妹のうちで)年長の～」という意味では、比較級elder、最上級eldestとなることもある。
6. hotは1音節の語で-er, -est型の規則変化をするが、語尾が<短母音+1子音字>なので、子音字を重ねて-er, -estを付ける。
7. coldは1音節の語で、-er, -est型の規則変化をする。
8. longは1音節の語で、-er, -est型の規則変化をする。
9. shortは1音節の語で、-er, -est型の規則変化をする。
10. heavyのように短い2音節の語は、-er, -est型の規則変化をする。語尾が<子音字+y>なので、yをiに変えて-er, -estを付ける。
11. easyは短い2音節の語で-er, -est型の規則変化をするが、語尾が<子音字+y>なので、yをiに変えて-er, -estを付ける。
12. difficultのように3音節の語の規則変化は、語の前にmore, mostを付ける。
13. hardは1音節の語で、-er, -est型の規則変化をする。
14. goodは1音節の語で、不規則変化をする。比較級はbetter、最上級はbestとなる。
15. strongは1音節の語で、-er, -est型の規則変化をする。
16. popularは3音節の語で、more, most型の規則変化をする。
17. famousのように2音節の語の多くは、more, most型の規則変化をする。
18. importantは3音節の語で、more, most型の規則変化をする。
19. wellは1音節の語で、goodと同じ不規則変化をする。比較級はbetter、最上級はbestとなる。
20. carefullyのように語尾が-lyの副詞は、more, most型の規則変化をする。ただし、early「早く」は-er, -est型の規則変化である。